

横浜翠嵐高校

データ A:B:C:D比 2:6:2:2 / 時間 60分 / 配点 200点 / 観点:理解分析力・思考判断力・表現構成力・想像力
 2018年度募集定員:358名 / 2018年度志願者数:777名 / 2018年度志願競争率:2.17倍

やはり「県下最高レベル」——精密な読解・判断・推理力を求める「頭脳の総力戦」

□問題の概要

全体は3部構成——難解な文章読解と情報判断で解答に接近する

特徴と変化	1 全体的傾向	精密な読解力と思考力を要求・難解な語句が多い	<input type="checkbox"/> 文章は多少読みやすく
	2 教科の傾向	特定の教科の問題ではなく、全方位的な内容を含む	<input type="checkbox"/> 英語が再び増加
	3 形式の特徴	説明記述問題と微妙な選択問題が多い	<input type="checkbox"/> 説明が減少・選択が増加

難解な文章の読解と、一筋縄ではいかない論理的な推理・判断力を求める問題です。設問数は特別多くありません。しかし、「なぜそうなるのか?・これは何を意味しているのか?」という思考を常に要求します。示された情報の精密な読解力が特に重要です。斜め読みのレベルでは何を言っているのか理解できないような設問もあります。時間的にも内容的にも厳しい、「頭脳の総力戦」です。

- 課題1 事故の発生を防ぐための工夫「フールプルーフ」「フェイルセーフ」などの説明文を読みます。この後に、計算や論理判断、図で説明、などの問題が続きます。最後は1ページ分の英文読解です。文章中の「トレードオフ」の英語による説明を読み、その例としてふさわしい英文を選びます。
- 課題2 「立憲主義」に関する説明文を読みます。その内容についての論理判断の問題が中心です。広い意味での「内容一致」を判断する読解問題群です。
- 課題3 「植物の生存戦略」をテーマにした説明文を読みます。C(競争強者) S(ストレス強耐性) R(攪乱適応)の3つのタイプを理解し、仮説作成、論理判断、小英作文を解きます。

各課題の文章には、上記のような抽象的で難解な用語が多く用いられ、その語句がそのまま設問にも使われます。各設問は前後のつながりがありあまり無く、順序も分野も不規則に並びます。また、選択問題が増えましたが、「すべて選ぶ」というような難しいものも多く、読解・思考・解答の全過程で頭脳をフル活用しなくてはなりません。

□設問一覧 難易度平均 [7.0] (昨年度 8.0) ※表の詳しい見方は別のページにあります

読解・思考・解答すべての面で高レベル～選択問題が多いが、平易とは言えない

大設問	設問	形式	使用教科	読解プロセス			標準的思考プロセス							解答プロセス				難度	内容概略	
				読1	読2	読3	1	2	3	4	5	6	7	選択	記述	説明	論述			
課題1	設問1問1	計算	数	<input type="checkbox"/>	テ		推	判	算										7	製品を120個作る最短時間を計算
	設問1問2	選択	数論	<input type="checkbox"/>	テ		推	算	判										6	製品を作る時間が最も短くなる方法を選択
	設問1問3	説明	数論	<input type="checkbox"/>	テ		推	判	文	算									9	製品を作る時間が最も短くなる方法を説明し作る時間を計算
	設問2	選択	国	<input type="checkbox"/>			推	推	判										5	本文中にあるフェイルセーフに該当するものをすべて選択
課題2	設問3	説明	国理	<input type="checkbox"/>	難		知	推	図	文									9	資料をもとに手を切断する事故を防ぐ仕組みを考案図と文で説明
	設問4	選択	英	<input type="checkbox"/>	訳	難	訳	訳	推	判									8	トレードオフに関する英文の内容と合致しない英文を選択
	設問1	選択	国社	<input type="checkbox"/>	難		推	推	推	判									7	多数決で決めるべきでないこと具体例をすべて選択
	設問2	選択	国社	<input type="checkbox"/>	難		知	推	判										6	一人一人が自分で判断すべきこと具体例をすべて選択
課題3	設問3問1	選択	国社	<input type="checkbox"/>			推	推	判										5	課題文の内容に合致しないものを選択
	設問3問2	説明	国	<input type="checkbox"/>	難		推	推	判	文									9	問1で選んだ文の理由を説明した文の空欄に5字以内・20字以内でそれぞれ説明
	設問1	説明	理	<input type="checkbox"/>	難		推	判	文										8	資料をもとに研究者が立てた仮説を説明
	設問2	選択	数理	<input type="checkbox"/>	テ		推	推	判										6	攪乱適応型の植物についての説明文の空欄に当てはまるものを選択
	設問3	説明	英	<input type="checkbox"/>	訳		訳	推	文										8	課題文に関連した英文の対話中の2つの空欄にあてはまる語句を4～10語で説明

選択問題が13問中7問と、解答を書くだけなら楽になったのですが、県下最高の難問群です。次のような難しいポイントが、各設問に組み込まれています。全ページの表の上の部分「プロセス」に注目してください。

「文章に何が書いてあるのか、理解が難しい」「設問で何が問われているのか、イメージしにくい」以上が読解プロセス、「情報が多く、考えているうちに混乱しやすい」のが思考プロセス、「選択肢をどう選べばよいのか、まぎらわしい」「記述をどうまとめればよいのか、とりとめがない」などが解答プロセスでの難しいポイントです。

□設問の特徴① 横浜翠嵐の問題はどのように難しいのか

精密な読解力+類推力がテーマ — 「何となく」では正解できない厳しさ

総文字数はおよそ9200、英単語数はおよそ900。最多ではありませんが、情報量が多く手間がかかります。3つの文章の内容は、かなりハイレベルです。

今年度の問題は選択が増えた結果でしょうか、似たタイプの思考力を求める問題が多く並び、同校が今年度求めた学力の性格がはっきり示されました（来年度以降も続く、という意味ではありません）。

2つにまとめます。

- 1 難解で抽象的な語句を理解でき、他と区別できる精密な読解力
- 2 理解した意味を他の語句や具体的なことからあてはめて結びつける類推力

では、設問の中身に沿って「どのように難しいのか」を、具体的に分析します。

課題1は文章で事故防止策の重要語句が2つ示されます。

フルプルーフ……装置やシステムが、誤った操作を受け付けないようにする

フェイルセーフ……装置やシステムが、故障などの異常時に被害をくいとめられるようにする

前者は「起きる前」、後者は「起きてから」の対策です。

文章中に具体例が示されていますが、字面上区別しにくいこともあり、2つの概念を正確に区別するのは骨が折れます。ここまでが「読解力」です。なお、最初の設問1はこの区別とは無関係な「システム設計」です。慣れていないと「何が問われているのか」つかむのがたいへんです。システム設計の3問の後に「フルプルーフとフェイルセーフ」の区別をする選択問題です（この配列も集中力の持続を困難にさせ、難易度を上げています）。

設問2は、6つの日常的なことから「フェイルセーフ」にあたるものをすべて選びます。ここで「類推力」が問われます。たとえば、選択肢Aを要約すると「電子レンジはドアを開けたままでは作動しない」です。これがどちらなのか選びます。「作動しない」なので、誤った動作を受け付けなくなっています。「フルプルーフ」です。選択肢は具体的なので難解ではありませんが、まぎらわしいものもあり、「すべて選ぶ」には注意深さがが必要です。乱雑な読解は通用しません。

設問3はフルプルーフの考え方にしたがって、紙を切る装置の安全システムを設計する問題です。ここでも理解した意味を適用する類推力が求められています。

設問4の英文読解も設問2に似た構造です。文章中にある「トレードオフ」が英文で説明されます。この文章を読んで意味を理解し、そこから「トレードオフ」の事例といえる選択肢（説明と選択肢で1ページ分なので、かなりのボリュームです）を選びます。この設問には語注が無く、去年は無かった別紙の「単語集」を参照します。ここでも読解力+類推力が厳しく試されます。

課題2の「立憲主義」では次のような難解な語句が語注なしで並びます。「立憲主義」「便宜とコスト」「社会全体の利便」「世界観を奉ずる」「硬性憲法」「軟性憲法」「集合離散と妥協・連携」……法律用語は文章で説明されますが、それ以外（集合離散）などは知らなければ文脈から推理する他ありません。課題2の求める読解力にはこのような「意味の推理力」も含まれます。

設問1は「多数決で決めるべきではない」ことを、設問2は「一人一人が自分で判断すべきこと」を、それぞれ5つの具体例からすべて選びます。特に設問1は選択肢の差異がデリケートで、かなり迷われます。以上の2題の構造は課題1の類推力問題と同じです。設問3は文章読解の発展型で、「文意に沿わない選択肢」を選び、それを選んだ理由を文章中の語句を用いて説明します。国語によくある「内容一致」問題の構造ですが「正しくない理由

を説明」という逆転があるため、かなり複雑になっています。また、本文からの語句選定が難しいため、苦勞させられます。乱雑な読み方では、はね返されてしまいます。

課題3「植物の生存戦略」では、次の3つのキーワードが示されます。

C：競争型……………競争に強く、他の植物を圧倒して生存するタイプ

S：ストレス耐性型……過酷な環境のストレスによく耐え、競争相手のいない場所で生存するタイプ

R：攪乱適応型……………攪乱（変化が激しい）環境に適応して生存する「変化に強い」タイプ

課題1と同じように具体例を示して説明されますが、語句の正確な区別は容易ではありません。さらに途中から「C」「S」「R」の略称が用いられるので、注意して読み進めないと、何を意味しているか分からなくなってしまいます。

設問1はガーベラの花びらの形成に関する「仮説立案」で、学力検査「理科」の難問の発展型です。理科の知識より「理料的思考」が重要です。

設問2は文章から得た情報をもとに、「攪乱」の度合いが植物の多様性にどのような影響を与えるのかを判断する問題です。ここでも抽象的な「攪乱」の意味を具体的な「植物の生存」にあてはめて判定するという類推の力を用います。

課題3の英作文でも、文章中に示された「戦わない戦略」をよく理解していないと書けません。精密な読解力と少々の類推力を用いる英作文です。

長くなりましたが、横浜翠嵐高校の難しさが「語句の理解（読解）」と「理解した内容の活用（類推）」にあることがお分かりいただけたと思います。別の表現をすれば「抽象的なものと具体的なことを結びつけ、両者の間を自由に行き来できる思考力」となります。その力を試すために、抽象的で難解な語句と具体的事例を多数並べたと考えられます。

他の学校と比較すると、文章の難しさが群を抜いています。また、難解な語句の理解と活用に、ここまでこだわった特色検査は他に存在しません。

以上が、横浜翠嵐高校の特色検査を「最高レベル・頭脳の総力戦」と評した理由です。

□設問の特徴② 横浜翠嵐の問題はなぜ難しいのか

精密な読解力＋類推力がテーマ —— 「何となく」では正解できない厳しさ

なぜこんなに難しいのかといえば、「そのような問題を解くことができる学力の持ち主を選びたいから」です。

右のグラフを見てください。比較的易しい特色検査と、難問ぞろいの特色検査では、得点分布は大きく異なります。グラフは、論理的思考力を重視している3校の特色検査の得点分布を模式的に表しています。

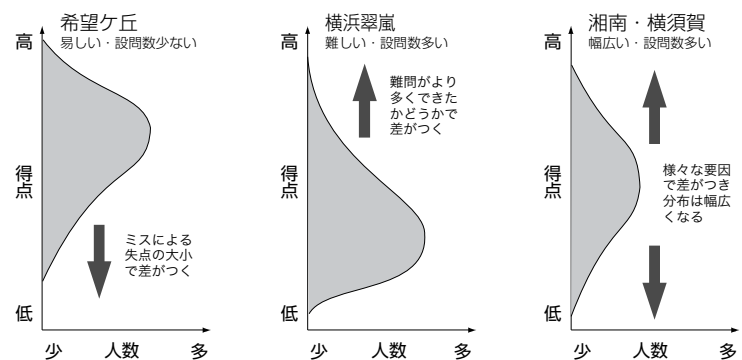
平易：希望ヶ丘、難：横浜翠嵐、幅広い：湘南・横須賀、を例として比べています

（なお、グラフはあくまでも分布イメージ

です。実際の結果とは直接関係していませんのでご注意ください）。

問題が平易なら、得点は高くなるので、「ミスしないこと」が重要です。横浜翠嵐のように難しい場合は分布が下に偏るので、一つでも多く難問を解決できたかどうか問われます。つまり、同校が求めるのは「難しい語句や抽象的なものでもかみ砕いて理解しようという積極性と、実際に理解できる能力」ということです。また、用いられる題材のほぼ全てが、5教科の学力検査と重ならない（課題1）または、内容的に教科の枠を超えて広がっています（課題2と3）。したがって、見たこともない情報をかみ砕く読解力も加わります。また、全体の分布が低いということは、同時に「突出した何かを保有する人物を選ぶ」のに適しています。

横浜翠嵐高校が難問を出し続ける理由は、以上のような学力観、人物観によるわけです。



□昨年との比較

主に選択問題増加によってやや解きやすくなる——本質的な難しさはやはり残る

「一つ選ぶ」選択問題が増えたので、解きやすくなったことは事実です。例年より、最後まで解き終わられた受検者が増えたはずです。

用いられる文章が昨年の2つから3つに増えました。その代わり、文章の中身はいくらか具体的になり、昨年よりは理解しやすくなりました。一方、昨年に比べると「文章を読まずに設問だけ読んで解答できる」という設問が減りました。このように、易くなった部分と難化した部分があります。また、理解困難な超難問が減りましたが、このことは「あきらめてパスしたほうが賢明」という問題が減ったことを意味します。すべてきちんと解かなくてはいけなくなりました。一概に楽になったとはいえません。

やや易化したとはいえ、県内最高峰であることは変わりません。

英語にも変化が見られました。昨年は英語は最小限まで縮小されましたが、一昨年のレベルまで戻りました。難易度を高める「単語集」も復活しました。これは「横浜翠嵐は英語はあまり出さないから……」という予想をさせないための措置かもしれません。そう思って過去数年の変化をたどると、求める学力の本質はあまり変わらないが、設問の形式や外観は大きく変化すると言えそうです。

イメージを固定化して、過去問のパターンをなぞるような学習ではいけない、と主張しているようです。

■代表的な問題と湘ゼミの対策例 ①

課題1 設問2 (ほかにも複数) フェイルセーフに該当する具体例を選ぶ

この設問の内容は2ページの「設問の特徴①」の項目で説明したとおりです。

◇問題分析：抽象的で難解な語句の読解力+抽象的内容を具体例の判断に適用する類推力

上と同じく、この設問の内容は2ページの「設問の特徴①」の項目で説明したとおりです。

□「特色検査模試」の出題 (文章省略)

「ナッシュ均衡 (ゲームなどの状況において各参加者が、「相手がどう出ようが、自分が損をしない行動」をとろうとするとき生まれる均衡状態)」に陥ったとはいえない状態を次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア となりどうしの家電量販店が、同じ商品の価格設定で迷っている。どちらもできるだけ高い価格で売りたいのだが、競争相手に値下げされたら不利になる。そのため、どちらも不本意ながら相手と同じレベルまで価格を下げざるを得ない。

イ 核兵器保有国のいくつかは、核兵器削減の条約に参加するなどの動きを見せている。率先して完全に廃棄してしまうのが最も賢明な方法という説もある。核兵器を保有して維持するのは大きな費用がかかるためである。しかし、仮に全保有国が一斉に廃棄したとしても、どこかの国が秘密のうちに再保有した場合、自国が大いに不利になってしまうのは確実である。このような事情から核廃絶が困難と言われる。

ウ 家電量販店では、「他店よりも1円でも高ければ値下げします」といった広告がよく目につく。これは、価格の値下げ競争を激しくするものではなく、それに歯止めをかけるものとして、導入された。なぜならば、どの店舗の価格もまったく同じであれば、値下げをする必要がなくなるからである。

エ 関係のよくない2つの国が湖をはさんでいる。どちらも湖から生活用水をくみ取り、湖に排水している。両国は、湖の水質悪化を止めるために、浄化設備の設置について話し合っている。様々な理由から協議はなかなか進まない。環境改善を考えれば、どちらかの国だけでも設備を導入すればよい。しかし、費用負担が大きい上、導入しない側の国が経済的軍事的に優位に立つことを考えると、自国だけで環境改善に取りくむ決断はできない。

□「特色検査模試」の出題 (文章省略)

日本国憲法第26条の内容にもとづく具体的な政策やきまりなどとしてふさわしいものを、次のア～エの中から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 小中高校および大学を新たに設立するためには文部科学省の認可を受けなければならない。
- イ 小学校および中学校の教科書は、無償で提供されており、書店で買い求める必要はない。
- ウ 2014年から高校の授業料について、世帯の所得が高い場合には無償化が適用できなくなった。
- エ 心身に障害をもつ子どものために、個々人の事情に応じた学校が設立されている。

■代表的な問題と湘ゼミの対策例 ②

課題2 設問3 ある文の内容が、課題文とかみ合わない理由を、課題文に即して説明する

文章の主旨と合わないものを選び、選んだ理由を文章中の語句を用いて説明します。文章では次のような順序で説明が進みます。番号は文章の段落に対応しています。

- 1 「立憲主義」は国家権力を制限するためにある
- 2 西洋の歴史では複数の異なる正義観が対立し血みどろの争いに至った
- 3 その解決と、公平に暮らせる社会秩序の維持のために生まれた思想が「立憲主義」である
- 4 立憲主義の手法は、社会を「公と私」に分け、「私」では個人の世界観(価値観)の自由を保障し、「公」ではそれを脇において共有できることを冷静に判断する
- 5 立憲主義の基盤である「憲法」は多くの国で改正が難しい「硬性憲法」である
- 6 なぜ主権者である国民が変えたいと思っても変えにくくしてあるのか?
- 7 選挙では短期的な利益がテーマになり、その利益をめぐる政治家が集合離散し多数決が行われる
- 8 7のような短期的判断に対し「多数決に向かないこと」「個人が判断すべきこと」がある
- 9 7と8の理由から、日本国憲法では憲法改正には高いハードルが設けられている

◇問題分析：論理の正確な読解＋抽象化と具体化を行い、理由を説明する ― 何よりも正確に

上のような段落の要約が必要です。この過程で抽象的な語句を正確に理解し、具体例と結びつけたり、説明文(選択肢)と突き合わせて一致しているかどうかを確認したりすることが求められます。文章全体をしっかりと読み込み、段落間の関係をつかまないと正しく判定できません。

選択肢は次のように要約できます。

- ア 立憲主義は国家権力を制約する(段落1と一致)
- イ 立憲主義は血みどろの争いを否定し、多様な価値観を認めつつ社会秩序を目指す(段落3と一致)
- ウ 硬性憲法は立憲守護の原則をとる国で採用されることが多い(段落5と一致)
- エ 異なる意見の集団が多い場合、集団の集合離散などの結果、多数派が形成され事が決する多数決は合理的な方法である(7・8に一致しない=正答)

正しい判断のためには、7・8に書かれた「多数決には正しい面もあるがよからぬ面もある」という微妙な「違和感」をつかむ必要があります。上記のように、精密に読んで、文章の論理構造を理解しなければなりません。このようなデリケートさが、横浜翠嵐の問題の難しさのポイントです。

さらに、今の判断の根拠を説明するのですから、仮に選択問題が運良くあっても、読解の精密さが欠けたままでは高得点は不可能です。

□「横浜翠嵐高校特色検査模試」の出題(文章の一部のみ掲載・解答欄省略)

どんなに偉い科学者であっても、一人で主張しているうちは「正しい」わけではない。逆に、名もない素人が見つけたものでも、それを他者が認めれば科学的に注目され、④もつと多数が確認すれば、科学的に正しいものとなる。

下線部⑥ (僕は)⑥「大勢が同じことを主張しているから正しい」「有名な人が言っていることだから正しい」ということはない、と考えているからだ。

設問 下線部④と下線部⑥は、一見すると矛盾することが述べられているように見えるが、著者の考えにおいて両者は矛盾することなく成り立っている。この理由を、解答欄を補うように説明しなさい。

■代表的な問題と湘ゼミの対策例 ③

課題3 設問2 植物の適応についての説明文の空欄にあてはまる語およびグラフを選ぶ

「攪乱適応」についての情報処理・論理判断の問題です。この設問の内容は「設問の特徴①」の項目で説明したとおりです。

◇問題分析：選択肢の「反復使用許可」＋語句の難解さで難しくなる

まず、次の文章の空欄を補います。

攪乱の規模が大きいと攪乱に強い種だけが生き残り生物種は **1** なる。攪乱がほぼない安定した環境では **2** によって生物種は **3** なる。ある程度の攪乱がある不安定な条件では強いものが勝ち残るとは限らず生物種は **4** なる。

1・3・4のための選択肢は「多く」「少なく」「等しく」です。2は「競争」「進化」「ストレス」から選びます。最後にここで説明された状況を表現したグラフを5つの中から選択します。

この設問には「選択肢を何度使ってもよい」という条件があります。もし「選択肢は一度だけ使う」だったなら、一つをあてはめれば残る対象が減るので、解き進むにしたがって候補が減ります。ところがそうならないので読解の正確さがより重要になります。ここまでが第一の難しさです。これを解決すれば、グラフの選択は容易です。

第二の難しさは「設問の特徴①」でも説明したように、「攪乱」などの語句が難解でイメージしにくいことです。このため、読解や情報の整理が乱雑なままではすぐに混乱してしまいます。

□「横浜翠嵐高校特色検査模試」の出題

著者は、「原因結果的にものを考えるということが、科学の眼の一つなのである。」と記している。これは、「連続するものごとを、ばらばらにつかむのではなく、原因と結果の流れから見て考える」ことである。では、次の資料を同じ視点から見て、富士山頂では上手に米を炊くことができない理由を説明しなさい。

図1 高度と大気圧の関係

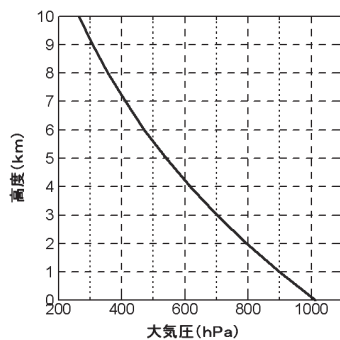


図2 温度と飽和蒸気圧の関係

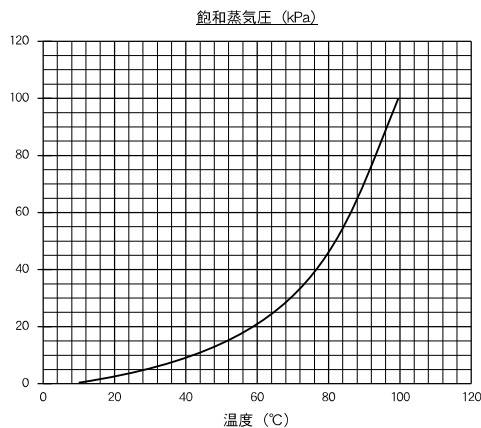
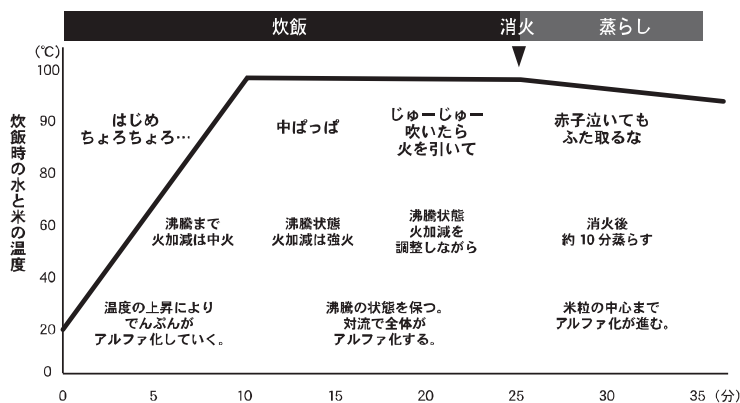


図3 炊飯の一般的な手順と注意点



□課題と対策のまとめ：3つのポイント

1：読解の正確さの追求 2：作業を正確に進める 3：難しいものを読む＝疑問を解決する

1の「読解の正確さ」を鍛えるための基本を記します。「手も使いながら読む」ことです。複雑な文章・情報を読む際、目印をつけたり、関係のある箇所間に線を引いたり、情報を一度図式化して、視覚的に分かりやすくすることが重要です。このような練習を重ねると、正確さに速さが加わるようになります。

「難しい」ものに出合ったら、その難所を整理する練習のチャンスと考えてください。図式化・視覚化の技術は、高校や大学の入試で強力な武器なのはもちろん、一生使い続けることのできる知的資産です。横浜翠嵐を志願するなら、どれだけ練習しても無駄ではありません。

2：計算・作業の対策です。パズル的な作業や複雑な計算の問題は、手間さえかければ正解できるので、落としてはいけません。「ミス無くす」ことです。ミスしやすい人は、どこでミスするのか明らかにしなくてはなりません。「ミスしない方法」を受身で教わるのではなく、能動的に「なぜ、どこで、自分はミスをするのか」と考えるべきです。「記憶や暗算に頼る部分でのミス」「書き写すときのミス」「多数の要素や大きな数の扱いでのミス」などがあります。

有効な対策はやはり「手も使いながら読む」練習です。複雑な計算や証明の問題、経過を説明する問題やパズルなどを始めから終わりまでミスなく終えられるように練習します。制限時間を設けて速度にもこだわってください。

3「難しいものを読む」について説明します。あたり前ですが「難しいものを積極的に読む」ことです。難しいとは、見たことも聞いたこともないことが説明されているか、抽象的で分かりにくいことが説明されているかのどちらかです。そのような難解なものを読み「これは何？」を体験してください。

そして、熟読によって理解するよう努力してください。この問題は、ネットですぐ調べるような安易な解決方法に頼る人物をしりぞけようとしています。難しい箇所は前後の文脈などを含めて何度も読み返し、自力で理解することを試みてください（それでも分からなければ、調べたり教えてもらったりしましょう）。

□課題と対策：「3」の具体例

難しいものをどうやって読み解くか

3「難しいものを読む」ことの実例を示しましょう。かなり難解ですが、覚悟を決めてつきあってください。

20世紀の思想に最大級の影響を与えたオーストリア人哲学者ウィトゲンシュタインの著書『論理哲学論考』の要旨を抜き出して箇条書きにしたものを記します。

- 1 世界は、「そうであること」のすべてである。
- 2 「そうであること」、つまり事実とは、ものごとが現実にならなっていることである。
- 3 事実の論理的な「像」が「考え」であり、「考えることができる」とは「像」作成が可能ということである。
- 4 「考え」とは意味のある「命題」のことである

抽象的な語句がならび「何を言っているのかさっぱり分からない」人が多いことでしょう。しかし、じっくり読み、語句の間の論理の関係をていねいに追えば、全く理解不可能でもありません。では、図式化して読解します。

- 1 世界＝そうであることのすべて
- 2 そうであること＝事実＝ものごとが現実にならなっていることである。
- 3 事実の論理的な像＝考え 考えられる＝像ができる
- 4 考え＝意味のある命題

代入法が使えることが分かります。すると、次のような等式が成り立ちます。

世界＝事実のすべて＝現実にならなっているものごとのすべて
 事実の論理的な像＝考え＝意味のある命題 考えられる＝像ができる＝意味のある命題ができる

さらに整理します。

世界＝事実のすべて＝考えることができることのすべて

ここでの「考える」ということは、ことばを組み合わせで「これとこれは同じことといえるだろうか」「これらの間の共通点や相違点は何だろうか」などを検討することです。となると、世界とは「ことばによって考えたり想像したりすることができるものごとのすべて」ということが結論となります。

このような作業を行う力が「精密な読解力」なのです。

以上のような内容が続いた後、『論理哲学論考』には、ダメ押し的な結論が記されています。

「語ることができないものについては沈黙するほかない」

語ることができないものについて沈黙するというのは、「語れないものは語れない」と書き換えられます。同じことを反復しているだけに見えます。なぜこんなことをウイットゲンシュタインが論じたのか説明します。

世界は「ことばによって語られる（像ができる・考えられる）」すべてで成り立っている。しかし、ことばで語ることができないものがその外にある。ことばや思考の限界を知ることが哲学のできることであり、ということです（この書物には謎めいた記述が多く、世間には無数の解説書があふれています。ここに記したのはその読解の一例にすぎません）。

ウイットゲンシュタインの説は、言語にできること、考えて解決できることの限界を示しました。たとえば「どう生きるのが正しいのか」という問いがありますが、「正しいこと」を正しく像にする（考えて定義する）ことはできません。個人によって意味が異なる像しか成り立たないからです。したがって、この問いかけ自体が意味のないものになります。ことばでは定義も解答も不可能なことを求める質問であり、この解答は「語ることができないもの」なのです。彼は「どう生きるべきか」のような「いわゆる哲学」の問題の多くは、はじめから無意味であると主張したのです。

ここまで読んで「難しかった……」と同時に「結論だけを知れば意外にシンプルなことを、どうしてそんなに難しく論じるのか」と思った人も多いでしょう。哲学に限らず、学問（科学）でもっとも重要なのは「そこに説明された方法を用いれば誰でも同じ結論を得られるように説明する」ことです。だから、回りくどくてもていねいに進めるのです。書く側にも読む側にも、同じだけの精密さが求められるのです。

しかし、今の例のように、手間を惜しまなければ読解は不可能ではありません。このような「難しいものの読解」の経験が多いか少ないかが、横浜翠嵐高校の特色検査の結果に影響します。しかし、「難しいものの読解」は、横浜翠嵐高校の合格のためだけに必要なことでしょうか。そのことをよく考えれば、同校が求めることと対策のために苦勞することの長期的な意義が理解できます。

横浜翠嵐高校は一貫して「疑問と推理」をテーマに出題しています。難しいものの読解に加え、日常生活で「なぜ、こうなっているの？」という疑問を抱くことも重要です。今年の問題で言えば「なぜ紙を切る裁断機は2つのスイッチを両手で同時に押しなければならないようになっている？」「どうやったら最も効率の良い作業の組み合わせができる？」——このような疑問から問題が出発しています。

幸いにも、疑問解決のための「調べる方法」はたくさんあります。ただし、調べて「何となく分かった」で終わらせないことです。ていねいに調べ、精密に考えます。そして、誰かに説明することも重要です。他人に説明できるようになれば、理解は確実に深まっています。できれば構造的に、手短かに、分かりやすく……。ぜひ、友人や家族と、身近に見つけた問題について疑問点を交換し、その解を出し合うようなやりとりをしてください。

疑問・推理・調査・解決というプロセスを数多く体験すれば、難問も興味深く見えるようになります。

道を10メートルも歩けば、疑問は数え切れないほど生まれます。機械やシステムのしくみ、社会のルールの意味、生物の不思議……疑問・推理・調査・解決を繰り返すだけで、生活は何倍も楽しく充実したものになります。特色検査模試の受験者の多くが、次のような感想を書きました。「難しかったけれど、考えに考えて、発見があることがとても楽しかった」——この感覚に至るような体験が最高の対策です。